



【農業列島】 産地ルポ

スイートコーン

発芽良好で栽培性が高く安定した品質確保に貢献！

「ほしつぶコーン」

千葉県銚子市の事例

群馬県昭和村の事例

(編集部)

関東平坦地で栽培されるスイートコーンは、7月中旬ごろ、梅雨明けとともに出荷量が減少します。その後、8月上旬に入り北海道からの出荷が本格化するまでの間、夜温が下がる海沿いの千葉県銚子市や、群馬県の準高冷地で栽培されたスイートコーンが京浜地区の需要をまかないます。

今回は、この時期のスイートコーン栽培を担う千葉県銚子市と群馬県昭和村で、「ほしつぶコーン」を導入いただいた生産者の方にお話を伺いました。

事例1

千葉県銚子市
野村隆之介さん(卸売)
古川裕さん(生産者)

株式会社野村商店は銚子地区の農産物を集出荷している卸売業者です。主力はダイコン、キャベツ、ニンジンですが、夏はメロンやスイートコーンなども重要品目です。

野村商店が扱うスイートコーン銘柄の「イエロークールサブマリ」は、銚子漁港で使われる水を詰めて出荷されるスイートコーン。関東では珍しい氷詰めという出荷形態と、安定した品質から評価が高く、主に東京・大阪間の比較的人口の密集した地域にある市場

向けに出荷されています。

品種指定はなく、栽培農家などの品種をいつ出荷するか、しっかりとすり合わせすることで出荷品質を安定させているそうです。そのため、品種選定は重要な要素になります。

穂の品質が安定し、栽培性も高い

野村商店で出荷を担当されている野村隆之介さんは、「ほしつぶコーン」について「穂の品質が安定し、栽培面についてもバランスのとれている品種です」と注目しています。

銚子地区では、昨年から「ほしつぶコーン」の試作が行われてきましたが、糖度、大きさ、包皮の色、かぶり、しなびが問題となったことはなく、特に穂の品質は安定しているそうです。栽培面でも、草丈が低く、着穂位置も比較的低い安定感があり、分けつは中位で風通しがよく、収穫作業性も良好とのこと。

↑(株)野村商店の野村隆之介さん(写真右)と、古川裕さん。古川さんの圃場は5月10日に条間60cm1条、株間28~32cm、1粒まきにて播種。マルチはなし。収穫は7月23日。

地域概況

春～秋野菜の一大供給地、群馬県昭和村

群馬県昭和村は、群馬県のほぼ中央にある赤城山の北西麓にあります。標高は350~800mで気温の日較差が大きく、日照時間が多いので、良質な高原野菜が収穫できます。代表的な野菜はハウレンソウ、コマツナ、レタス、キャベツで、こんにゃく芋の生産量は日本一です。

また、こうした気候条件から、良質なスイートコーン栽培も盛んですが、倒伏による作業性、品質の低下、年によっては紋枯病による収量減が問題となっており、これらに対応できる品種が求められています。



海沿いの産地、千葉県銚子市

千葉県銚子市は周囲を海に囲まれた海洋性気候帯で、日中でも30℃を超えることは少なく、関東屈指の避暑地と言われるほどです。「夏は涼しく、冬は暖かい」気候を生かした農業で、秋～春ダイコン、冬キャベツの代表的な産地です。スイートコーンは夏の涼しさを生かした栽培品目として定着しており、本格播種は5月から関東地区では比較的遅く、7月下旬が出荷最盛期となります。

銚子市では、年によって異なりますが、倒伏による作業性不良、紋枯病による収量減、先端不稔やしなびによる品質低下などが栽培上の問題となっており、例年品種選定を難しくしているそうです。



← 収穫前日の果実。旗葉の色が濃く、先端不稔なしでかぶりもよい。熟期は85日よりかなり早い。野村さんによれば、「他の85～86日タイプより早めの収穫を心掛けた方がよい」とのこと。



↑「イエロークールサブマリン」として、氷詰め出荷される「ほしつぶコーン」。港町の銚子市らしい資源を活用。

銚子市は年間140日以上、風速10m以上の強風が吹く地域です。今年は昨年ほどの大風がなかったため、耐倒伏性に関しては十分に検証できていないものの、「ほしつぶコーン」は草丈が低く、二次根の張りもよいいため、比較的風に強いと判断されています。

また、銚子地区では、絹糸についたかびが先端部の子実につる赤かび病が近年問題となっており、本病への耐性は注視していきたいとのことでした。



↑金子洋一さん。

事例2 群馬県昭和村 赤城高原共栄出荷組合 金子洋一さん

約70名の組合員がいる赤城高原共栄出荷組合では、15～20名の組合員がスイートコーン栽培を手掛けています。

「ほしつぶコーン」は品質および栽培面での安定性がよいことから「徐々にではあるものの、栽培は増加すると思います」と野村さんの期待も高まっています。

野村商店向けにスイートコーンを栽培する銚子市の農家の古川裕さんは、昨年は他社の88日タイプを栽培されていましたが、倒伏の問題があり「ほしつぶコーン」を今年導入されました。5月上旬播種で栽培され「1粒まきでしたが発芽がよく、草丈が低い割に穂は大きくなりました。余分な分けつが少ないので収穫作業性もよかったです」との評価をいただきました。

良好な発芽と 草丈の低さが印象的

出荷時期は7月中旬から8月下旬。ピークの8月上旬には、1日600～1000ケースを出荷します。

組合が出荷するスイートコーンは、京浜地区の有力スーパーからの絶大な信用を得ていて、甘みとコクが乗ることとで評判があります。品種指定はないため、各農家がどの品種をいつごろ出荷するかをしっかりと管理することで品質を安定させています。

組合員の一人、金子洋一さんは、今年他社88日タイプと併せて「ほしつぶコーン」を導入。「発芽は1粒まきでも可能と思うほど良好で安定感があり、他社88日タイプと比べて、初期から草丈は低く、出荷時期でも160～170cm程度という印象です」と、発芽の安定と草丈の低さが特長的だとか。

また、草丈が低いわりには子実が大きく、旗葉の色、先端のかぶり、食感、糖度も良好で、品質に関して問題点は見当たらないと太鼓判。一方、着穂位置は比較的低く、2穂が連続するものの2番穂は糖度が安定せず、粒列も乱れるものがあり、経済出荷にはむかなかったそうです。さらに、従来の88日タイプに慣れていることもあり、熟期には注意したものの、85日タイプより



↑色、大きさとも申し分なし。



↑播種は5月10日。9235マルチを使用し、2粒まき。間引き後、草丈60～70cmでマルチを除去。分けつは放任。7月30日に収穫。生育初期から草丈が低く、比較の88日タイプと比べるとかなり低いことが分かる。

もやや早い収穫適期との印象でした。

倒伏については、「今期はどの品種も大きな問題は発生していませんが、草丈の低さ、根張り、着穂位置から考えて他社88日タイプと同等かそれ以上と見えています」とのことから、「作りやすく、青果品質の安定した品種として今後も栽培に取り組んでいきたい」と評価いただきました。